

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

つぼみ 蕾

花卉を固く閉じて
まるでこぶしのようなこの蕾も
明日にはきっとほんのりと赤みが差し
その次の日にはぷっくりふくらんで
その次の日には花卉が一枚ほころんで
そして、その次の日には
必ず甘い香りを漂わせる。

今年の夢もまた然り。



年賀状

学級担任として以前受け持った子どもから年賀状が届きました。5年ほど前からぷつぷつと音信が途絶えていたのです。ずっと心配でした。

この年賀状には、2年前に離婚したこと、そして住まいを変えたことが書かれています。短い文面を何度も読み返しました。

この5年の間に、いろいろな葛藤があったのだと思います。彼に何があったのかは分かりません。それでも、時間が経つ中で、もう一度私に年賀状を書く心の整理ができたのだらうと思います。

30年前、髪を赤く染めて眉毛を剃り親の前で高校には行かんと言いつける彼をしばらくの間我が家に泊めて将来を話し合いました。

それなら中卒で社会に出てもよし。

しかし手に職をつけて自立しろと茶髪のを坊主にさせて寿司屋を紹介した。

しばらくして会いに行くと

手はアカギレして

爪は包丁で傷だらけだった。

1枚の年賀状を手にして、ずっと昔の記憶が蘇りました。

悩み、苦しみながらそれを乗り越えて、ほっとしたのも束の間、また大きな波に飲み込まれて・・・。辛かったろうと思います。あの時も、この時も。しかし、それを繰り返しながら、人は人として成長していくのかもしれない。

まだ固い蕾にしか見えないこの人生も、必ず色づき、ほころぶときが来ます。蕾は希望です。

いつもの風景

1月8日、平成27年が始まりました。

子どもたちが登校する前に、校務員の小野先生が校門から玄関にかけてちり一つないほどにきれいに掃除をしてくれています。教頭先生は校舎の周りのゴミを拾いながら学校の周りの安全点検をしています。校門では、子どもたちの挨拶の声とハイタッチ。いつもの朝の風景がもどってきました。

昼休みに運動場を見ると、先生たちが子どもと一緒に運動場を駆け回っています。掃除時間には、先生たちも子どもたちと一緒に床に膝をつき、学校の床を拭き上げています。

春日小学校のいつもの風景です。これがいつもの風景であることが、春日小学校の誇りです。

この風景が、春日小学校の伝統となるよう、今年も職員と力を合わせて頑張っていきたいと思います。

突然の風景

「わーっ！びっくりしたー！」

職員室を出ようとした時の林先生の声です。

実は、年末に職員室入り口前の廊下の壁に、大きな鏡を取り付けていたのです。職員室を出るたびに自分の全身大の姿が目の前に映し出されます。

この突然の風景もいつの間にか「いつもの風景」になっていくのです。

心と身だしなみを整える「いつもの風景」です。

